

第21回福山駅前デザイン会議

2025年2月18日（火） 13:30～15:30

コワーキングスペースtovio
（エフピコRiM 1階 iti SETOUCHI内）

agenda

01

福山駅周辺デザイン計画更新について

－ 全体の構成 －



- ✓ 全体的に新しい視点が入っており、5年に1回の計画の見直しによるデザイン計画の進化が図られている。
- ✓ 福山の特徴であるデニムやばらなどの写真を使うことで、福山らしいビジュアルになる。

－ ウォーカブルなまちづくり －

＼ ウォーカブルな取組の必要性 /



- ✓ ウォーカブルの取組の必要性や効果の説明は、具体的なデータや成果を示すことで理解が深まる。
- ✓ にぎわいには、「動なるにぎわい」と「静なるにぎわい」がある。例えば、駅南口界隈は街区が動のにぎわい、中央図書館周辺は静のにぎわいといった、動と静がうまく混ざり合うことで、良質なにぎわいが生まれていく。



－ エリア価値を高める戦略 －

＼ 再生の方向性と取組 /



- ✓ まちづくりでは、デザインの視点から言うと、まちのシンボルが求められる傾向がある。福山駅前にもシンボルがあると情報発信がしやすくなり、他の都市との差別化が図れる。
- ✓ 取組を個別に発信していくと、議論全体が見えにくくなり、デザイン会議の内容も正しく伝わりにくくなる。そのため、公式の情報を提供するメディアの整理や適切なプラットフォームの構築が必要となる。
- ✓ デザイン計画の各項目の丁寧な解説や取組の分類など市民が関心を持てるよう、分かりやすく発信することが必要となる。

\ プロジェクトを進めるための視点 /



- ✓ 「行政」と「民間事業者」に加え、新たに「地域コミュニティ」がまちづくりのプレイヤーとして明確に位置づけられた。地域の拠点づくりも動きだしており、3者のそれぞれの役割や取組を発信していくことも重要である。
- ✓ エリア価値を高める取組を進める中で、民間事業者にも情報発信を担ってもらいながら、駅前だけでなく地域や福山全体の魅力を発信していくという視点があってもよい。
- ✓ 持続可能な資金調達において、民間事業者の役割は、補助金に頼らない資金調達とファイナンスの仕組みづくりである。行政は、民間事業者の資金調達を補完する役割。過度に行政が支援すると事業が継続せず、一過性の事業しか生まれない。
- ✓ 中央公園では、官民連携で芝生の再生による効率的な公園の管理運営を検証する社会実験を行っていく。街路樹や園路などの整備は行政の役割となるが、民間の役割として、管理の視点を加えていくことが必要である。
- ✓ 地域コミュニティの役割は、地域をどう持続させるかを考え、行動すること。民間事業者の役割は、事業を立ち上げ、継続させていくこと。行政の役割は、組織同士の横の連携や制度の柔軟な運用、規制の見直しである。特に行政間、庁内の連携を強化させることが重要である。

agenda
02

エフピコRiM 他フロアの活用について



他フロアの活用方針(案)

他の地方都市にはない魅力的な働き方のモデルとなる場

- ✓ 具体的な取組やターゲットとなる人など、明確なイメージを持ちながら、フロアをどのように使うのか議論を深めていく必要がある。
- ✓ 何のためにフロア活用していくのかという問題点をしっかり掘り下げることが必要である。
- ✓ 方針案に対し、リム内で働く人向けなのか、市内広域で働く人たち向けなのか具体的に議論する必要がある。官民連携で取組を進めるのであれば、しっかりしたイメージを一緒に創り込む必要がある。
- ✓ イベントの開催数や集客数が増加し、良い成果が出ているので、働き方のモデルとなる活用をしながら、その取組や手法を効果的に情報発信を行うことが重要である。
- ✓ 若者にとって魅力的な場とは何かを把握するため、若者と直接対話をするような取組があってもよい。若者の減少対策の取組として、今後のリムに期待している。
- ✓ オフィスの環境について3つの考え方がある。1つ目はDX化で、オフィスをデジタル化に適した環境にすること。2つ目は快適化で、働きやすい快適な空間にすること。3つ目はコミュニティ化で、同じオフィスに入る企業との交流などによって、相乗効果が期待できることである。